

令和2年度 学校関係者評価委員会 議事録（抜粋）

■第1回 10月21日（水）13時00分～15時00分

出席者 委員 成山文夫氏 吉岡健一氏
水野直哉氏 豊藏 宏氏 (以上4名)
学校関係 下林理事長 前田校長 三村副校長
栄井保育こども学科長 瀧川事務担当 清水会計担当 (以上6名)

場 所 姫路福祉保育専門学校 第2号館：1階会議室

昨年度の自己評価結果を説明する。

次に本校の運営の質向上における問題点について意見が寄せられた。

- ・時代の風潮は、学校の教育理念を学生だけでなく、保護者にも発信する必要があると感じる。
- ・優秀な卒業生が活躍しているので、もっと積極的に協力を依頼することも必要である。
- ・広報には動画やSNSの活用、学生からの学校紹介が有効である。
- ・高校訪問時に在校生の成績や様子を報告することが、信頼関係を構築するために必要である。
- ・保育と介護、それぞれの良いところを合わせた魅力を伝えるのは、学校の強みである。
- ・社会人を募集対象にすることも、人数確保と同時に、介護人材不足という社会課題の解決にもつながるのではないか。
- ・財政を安定させるためには、まずは学校の存在を広く知ってもらう事が大切で、そのためには施設の貸し出しや付帯事業の実施、講座開設等の新規の事業の検討も必要ではないか。また、場合によっては職員のスリム化も視野に入れる必要があるのではないか。

等の意見を頂き引き続き検討を重ねていく。

■第2回 3月 3日（水）9時30分～12時00分

出席者 委員 成山文夫氏 吉岡健一氏
水野直哉氏 豊藏 宏氏 (以上4名)
学校関係 下林理事長 前田校長 三村副校長
栄井保育こども学科長 瀧川事務担当 清水会計担当 (以上6名)

場 所 姫路福祉保育専門学校 第2号館：1階会議室

今年度の振り返りが述べられた後、コロナ禍の影響を受けてこれからの学校の在り方を考える上での本委員会の意義の大きさについて確認された。

今年度の自己評価の集計表をもとに今年度の取り組みを説明した。そのうえで本校の運営の質向上における問題点について自由な発言を求めた。

- ・いろいろな新しい取り組みをしているので、今後はその効果の検証が必要である。その中から、さらに強弱をつけて、取り組みを精選することが必要である。
- ・経営改善の取り組みと現場の職員の負担とのバランスは常に配慮する必要がある。
- ・退学率の質問があり、継続したフォローの必要性を指摘いただいた。
- ・保育現場も、介護現場も、障害者への対応力を上げる必要性を強く感じている。
- ・今、コロナの影響もあり、自動車教習所への入所者が増えている。広報の場所として、そこを狙っていくことも効果が見込まれるのではないか。
- ・トライやるウィークやインターンシップをフォローするために制作した「知っ得メモ！」は、とても現場の役に立つものである。学生だけでなく、施設側にも活用できる。活用すれば、喜ばれ、結果として生徒募集にも効果が予想できる。

最後に、先を見越した取り組みに対して、好評価をいただいた。